

平成28年度 公共建築物等への 県産材利用事例集



目次

平成 27 年度完成施設

■いなべ市立ほくせい保育園	1～3
■豊野保育園	4～6
■矢浜保育園	7～8
■津みらい学園	9～10
■松阪市子ども発達総合支援センター	11～12
■学校法人慈光学園ひかり幼稚園 ひかりホール	13～14
■みはた虹の丘保育園	15～17
■さいくう平安の杜（正殿、西脇殿、東脇殿）	18～20
■三重交通Gスポーツの杜 伊勢 陸上競技場補助競技場 （写真判定室棟、器具庫・南トイレ棟）	21～22
■三重県観音寺公舎	23～24
■関南部地区コミュニティセンター	25～26
■曾根コミュニティセンター	27～28
■第二美杉小規模多機能型居宅介護施設シルバーケア豊壽園 美杉クリニック	29～30
■久保山の庵	31～33
■有料老人ホームみどりの森	34～36
■松本クリニック	37～38
■湯元山荘湯ノ口温泉 バンガロー	39～40

表紙写真

左上：津みらい学園

右上：久保山の庵

左下：いなべ市立ほくせい保育園

右下：有料老人ホームみどりの森

～地球も人も「木づかい」で健やかに～

木材利用は持続可能な社会づくりに貢献します

近年、地球温暖化や環境保全など人類が抱える様々な問題を背景に、大量消費・大量生産型社会から、低炭素・循環型社会への転換が求められています。

このため、有限な地球環境の中で、環境負荷を最小にとどめ、再生可能な資源の循環を図りながら、地球生態系を維持できる「持続可能な社会」を作り上げていくことが必要となっており、森林の持つ可能性に大きな期待が寄せられています。

森林は二酸化炭素を吸収・貯蔵し、成長することで地球温暖化の防止に大きな役割を担っていることに加え、その生産物である木材は、森林を伐採した後、また植えて適正に管理することで、再生可能な資源として循環させることができます。

そのため、持続可能な社会の構築を目指すうえで、木材を積極的に活用することが重要です。

木材は人にやさしい

木材はパイプ状の細胞が柔軟に変形してクッションのような役目をするので、高い「衝撃吸収力」があります。このため、コンクリートなどの床で転んだ時よりも、木の床で転んだ時の方が怪我をしにくくなります。また、木材はすべりにくいため、木の床は安全で歩きやすいといえます。

快適な環境を作ります

木材には、空気中の湿度が高いときは水分を吸収し、湿度が低いときは水分を放出するという「調湿作用」があります。そのため、乾燥する冬は湿気を増やし、蒸し暑い夏は湿気を吸収するため、一年を通して快適な環境を作ることができます。

また、木材は無数の細胞からなり、その一つひとつに熱を伝えにくい空気を含んでいるため、コンクリートなどに比べ、高い「断熱性」を持っています。そのため、夏は涼しく、冬は暖かく過ごすことができます。

木材は健康に良い

木の触感や木の香りには、リフレッシュ効果やストレスを抑制する効果など、人々に心の安らぎを与える作用を持っています。

そのため、木材は人の健康に良い影響を与えることが過去の研究でわかっています。例えば、特別養護老人ホーム入居者を対象に行った調査によると、下表のとおり、木材を多く使用する施設の方が、インフルエンザの発症や不眠を訴える入居者が少ないことがわかります。

このため、老人ホームや学校、幼稚園などの公共建築物等を木造・木質化することは、多くの人の健康な暮らしに貢献することができます。

施設の木材使用度別の心身不調出現率の調査表

入居者の心身不調の内容	対入居定員比(%)	
	木材使用の多い施設	木材使用の少ない施設
インフルエンザ罹患者	16.2	21.4
ダニ等やかゆみを訴えた入居者	4.4	5.4
転倒により骨折等をした入居者	8.0	12.1
不眠を訴えている入居者	2.4	5.3

※有意差(P<0.01)の認められたもの

資料:全国社会福祉協議会「高齢者・障害者の心身機能の向上と木材利用—福祉施設内装材等効果検討委員会報告書」
調査期間は平成9年12月～平成10年1月

地域の活性化や環境保全に繋がります

地域の木材を積極的に利用することは、森林の持つ様々な機能を発揮させ、林業や農山村地域を活性化させることに繋がります。

例えば、三重県産の木材を利用し、森林を循環させることは、健全な森林の整備に繋がり、洪水や渇水の緩和、山地災害の防止など、私たちの暮らしの安全・安心に様々な恩恵をもたらします。

このため、県では、木材の大きな需要が期待できる公共建築物等における木造・木質化を図り、積極的に地域で生産された木材を利用することで、「木を植える→育てる→利用する→また植える」といった「緑の循環」を推進し、地域の環境を守る活動に取り組んでいます。

事例紹介

いなべ市立ほくせい保育園





いなべ市立ほくせい保育園

所在地 いなべ市北勢町阿下喜3851
 発注者 いなべ市
 工期 着手 平成27年7月30日
 完成 平成28年4月28日
 階数 地上1階
 構造 木造

延床面積 1,863.3㎡
 工事費 768,121千円
 木材利用量 472.0㎡
 うち県産材利用量 434.0㎡
 設計 大建設計株式会社
 施工 大宗建設株式会社



1.木造を選択した経緯

いなべ市では、平成24年に「いなべ市公共建築物等木材利用方針」を定め、市内に整備される公共建築物への木材利用を積極的に進めています。平成24年度には、木造の笠間保育園を建設し、温かみのある心安らぐ保育園として大変好評で、木材利用推進中央協議会主催の平成25年度木材利用優良施設審査において、「林野庁長官賞」を受賞しました。このような経緯から、ほくせい保育園の建設においても木造を選択することとしました。

2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

ほくせい保育園は、園舎の一部を耐火建築物とすることで、燃え代設計など、耐火的措置の必要がない木造建築を実現しています。また、園舎建物の梁には、断面の大きな集成材を使用し、柱には、住宅用などの流通材を使用することで建物のコスト縮減に配慮しています。内装には、床に三重県産スギを圧縮加工したフローリングを、壁には、三重県産スギを不燃加工した壁板材を使用し、その他建具や家具にも積極的に木材を使うことで、温かみのある保育空間にしました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

利用者からは、「木の温かみ、ぬくもりを感じ、心が落ち着いて気持ちが良い」といった意見が多く好評です。また、「木の良さについての理解が深まり、木材を使用した施設の建設を促進すべきだと考えるようになった」、「保育園を見て、自分の住宅を建てる場合、木材を使用したい」との声が利用者だけに限らず施設の職員からも寄せられており、木造にして良かったと思います。



豊野保育園

所在地	三重県津市一身田豊野1979-1	延床面積	1,242.4㎡
発注者	社会福祉法人洗心福祉会	工事費	478,440千円
工期	着手 平成27年7月30日	木材利用量	396.9㎡
	完成 平成28年3月10日	うち県産材利用量	22.5㎡
階数	地上2階	設計	株式会社日比野設計
構造	木造	施工	株式会社ナカノフドー建設

1.木造を選択した経緯

敷地は田畑、池、森林と季節の移ろいが感じられる緑豊かな自然に囲まれ、心地よい風が流れています。そこで、自然の豊かさをより子どもたちに体感して欲しいと考え、木造にしました。

設計のコンセプトとして、ここでは、遊んでいる時、寝ている時、ご飯を食べている時、いつでも借景や光、風や匂いなどの自然環境が建物内部に浸透し、暮らしの中で、感性が刺激されるような園舎を目指しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

多目的ホールは原風景の延長上にある野原をイメージし、木漏れ日のような窓の配置や梁の見せ方を工夫しました。また、玄関は丸太が積みあがっているような意匠とすることで、木材の組み立て方を子どもたちが学べるよう工夫しました。

木部の塗装はメンテナンスのしやすいウレタン系でなく、素材感が出るステイン系を使用しています。その結果、環境に優しい自然素材が建物全体に浸透し、より自然環境に近い空間を演出することができました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

木材は生きた素材で、環境や季節によって伸縮を起すため、常時メンテナンスが必要な素材です。一方、子どもの施設においては生きた素材の環境で育つこと、そういった自然の成り立ちや現象を目にすることが、創造性や感受性を育むことにつながると考えています。実際にRC造から木造に建て替えを行ったことで、子どもたちの向上心や好奇心が増し、以前よりも様々な事に興味を持ち、自発的な行動が増えたように感じています。





矢浜保育園

所在地	尾鷲市矢浜2-24-1	延床面積	699.3㎡
発注者	尾鷲市	工事費	288,513千円
工期	着手 平成27年6月8日	木材利用量	115.2㎡
	完成 平成28年3月10日	うち県産材利用量	115.2㎡
階数	地上1階	設計	株式会社時田建築企画
構造	木造	施工	丸昇・村田特定建設工事共同企業体

1.木造を選択した経緯

幼少期から子どもたちが、地元産である尾鷲ヒノキのやわらかで温かみのある感触や香りに触れることで、元気にすくすくと育つための快適な保育環境を提供できるように木造を選択しました。

また、園児が安全に過ごせる空間創りを心がけるため、管理上の機能も考慮した平面レイアウトとし、加えて本園舎は防災機能（避難所）も兼ねていることから、できる限り木材を表面化させ、温かみや心の癒される園舎を目指しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

尾鷲ヒノキを、構造材（柱・梁等）に約28㎡、構造材（土台・柱等）に約58㎡、羽柄材（根太・胴縁等）に約18㎡、造作材（床・腰壁等）に約11㎡使用しました。

施設の特徴として、遊戯室は、海【波】と山【山並み】に囲まれた尾鷲市をイメージし、湾曲した梁（集成材）を使用した造りとしました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

本園舎には、尾鷲ヒノキを使用しており、園児と先生は「木のぬくもりが気持ちいい」、「香りが落ち着く」、「色目が明るくてよい」など木の良さを体感しています。さらに、保護者からは「快適な保育環境を創り出している園」と評価をいただいています。

一方で、木造園舎は「キズつきやすい」、「汚れた際のメンテナンスが大変」などの意見もありますが、園児たちが丁寧、大切に扱うことにより「物を大切にする心」が園生活を通じて育むことができるので、それも木造の魅力だと思います。



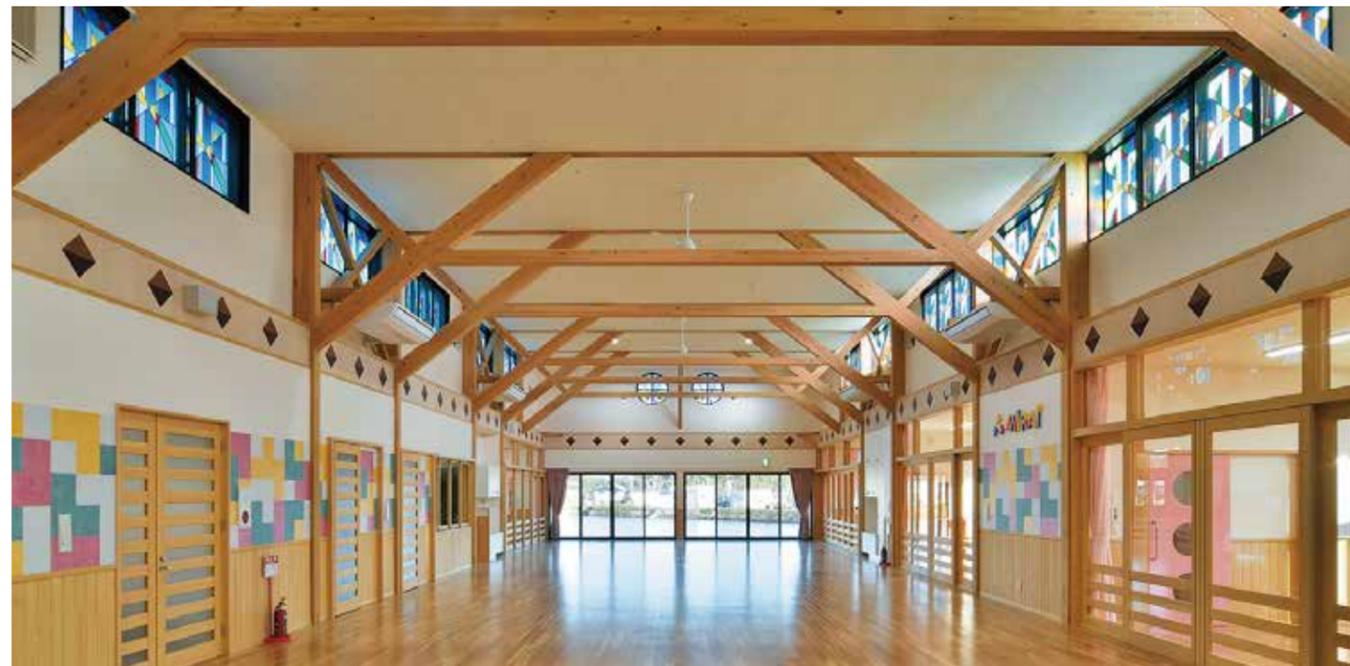
津みらい学園

所在地	津市一身田上津部田1454-3	延床面積	699.5㎡
発注者	有限会社MIRAI	工事費	208,500千円
工期	着手 平成27年7月1日	木材利用量	174.1㎡
	完成 平成27年12月28日	うち県産材利用量	174.1㎡
階数	地上1階	設計	総合設計株式会社イスト
構造	木造	施工	株式会社日本屋

1.木造を選択した経緯

香りやあたたかさ、やわらかさといった木が持っている魅力が、小さい子どもを教育する場として適していると考え、木造にしました。また、木造は安心感や落ち着きを得られやすいのではないかと考えた狙いもあります。

建物中央のホールは、吹き抜けがあり開放感のある空間となっていて、各教室から子どもたちが出たら、すぐに集まれるという間取りになるような設計となっているため、職員室から見渡すことができ、子どもたちの安全管理に役立っています。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

県産材を構造材に約145㎡、造作材に約29㎡使用しています。抜け節などがあると指を入れてケガをする恐れがあるので、子どもの手が触れるところの木材は節の少ないグレードの高いものを使用するよう工夫しました。また、抜け節があった場合は、埋木処理をしています。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

「木の香りが良い」、「木が持つやさしさやあたたかみを感じられる」という好評価を頂いています。また、施設の職員からも、「子どもが寝転がったりこけたりしても、他の素材とは違う安心感がある」、「木の香りやあたたかみに癒されながら仕事に取り組める」など評判です。小さな子どもにとって、やさしい木の匂いが香る開放的な空間で教育を受けることは、豊かな心を育てることにつながるのではないかと考えています。苦労したこともありましたが、木造にして良かったと思います。



松阪市 子ども発達総合支援センター

所在地	松阪市下村町875-1	延床面積	2,148.3㎡
発注者	松阪市	工事費	767,405千円
工期	着手 平成27年6月24日	木材利用量	613.5㎡
	完成 平成28年3月30日	うち県産材利用量	454.3㎡
階数	地上1階	設計	株式会社サードパーティ
構造	木造（一部鉄骨造）	施工	山口・伊藤特定建設工事共同企業体

1.木造を選択した経緯

子ども発達総合支援センターは、心身の発達に心配がある又は障がいがある児童が、障がいの程度に関わらず、地域において、早期からの一貫した支援を受けながら安心した暮らしを実現するための途切れない療育と訓練の場を提供をするための施設です。そのため、子どもに優しく温もりのある木造としました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

この建物は、様々な屋根形状をもつ建屋の集合体であり在来軸組工法を基本としています。木材は、構造材・下地材に約550㎡、造作材に約50㎡で合計600㎡程使用しています。

屋根架構は、室内天井の形状を自由にするために折れ点部を金物接合とする合掌梁及び充腹梁（上下弦材・束材・構造用合板を一体化した組立梁）を採用することで、大断面材を用いず、また特殊な技術が必要としない汎用性の高い施工を可能にしました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

この施設を利用する心身の発達に心配がある又は障がいがある子どもたちは、その置かれている環境からの影響が大きく、療育や訓練の効果も左右されるものです。この施設は、木造建築であることから、木材に囲まれた優しい環境であるため、子どもたちも伸び伸びとでき、安心できる環境と好評です。また、子育てに関する相談支援を行う際は、不安定な心情を和らげ、落ち着きを取り戻せる効果があると期待しています。



学校法人慈光学園 ひかり幼稚園 ひかりホール

所在地	四日市市伊倉2-221-2ほか	延床面積	350.5㎡
発注者	学校法人慈光学園	工事費	170,067千円
工期	着手 平成26年10月	木材利用量	100.7㎡
	完成 平成27年4月	うち県産材利用量	100.7㎡
階数	地上1階	設計	日新設計株式会社
構造	木造	施工	株式会社ジェイエイ津安芸

1.木造を選択した経緯

幼稚園の多目的ホールとして、園児や保護者はもとより地域住民にも愛される温かいイメージのホールを作りたいと考えました。そこで内装木質化も検討しましたが、建物全体から湧き出る優しさと温かさがある木造を選択しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

県産材を構造材に約58㎡、下地材に約36㎡、壁材に約5㎡、家具に約1㎡使用しました。その際、適材適所を心掛け、構造材には三重県産スギを加工した集成材を、下地材には三重県産スギの製材を使用し、品質の確保とコストのバランスをとりました。また、内装の壁には、木肌の美しい三重県産ヒノキの製材を本実加工して使用し、家具は収縮の少ない三重県産スギの集成材を使用しました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

「木造建築の優しさと温かさを身体全体で体感できる」、「木材の香りが良い」など、利用者の評判は大変良いです。園児におきましても、木材がつくる心地良い空間のおかげで、心身ともに健やかに、そして楽しそうに活動しています。鉄骨や鉄筋コンクリートの建物にはない効果がやはり木造にはあると感じています。



みはた虹の丘保育園

所在地	名張市新田字女良塚1005	延床面積	1,487.7㎡
発注者	社会福祉法人名張育成会	工事費	415,800千円
工期	着手 平成27年3月13日	木材利用量	349.0㎡
	完成 平成28年1月15日	うち県産材利用量	115.8㎡
階数	地上1階	設計	株式会社上野建築研究所
構造	木造	施工	株式会社丸栄建設

1.木造を選択した経緯

地元産業の活性化や快適な施設の整備のため、木造を選択しました。「夏は風が通り抜け、裸足で過ごせる快適な床」、「冬は太陽の光が暖かく照らし、木の香りが心地よい感覚をもたらし、園庭の小鳥たちのさえずりが聴こえてくる」そんな田園と古墳の森に囲まれた緑豊かな美旗地域に溶け込む保育園を目指しました。

また、設計のコンセプトとして、子どもたちの瞳がキラキラと輝き、木造園舎と屋根の高さに変化を付けた町屋のような懐かしく親しみのある保育園をイメージして設計しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

構造は集成材を使った「KES工法」という接合部をコネクターでつなぐ工法を採用しました。木造では困難であった自由な間取り・スパンに柔軟に対応したもので、震災にも耐える程の強靱な構造体です。

外部空間では、園庭に面したテラスは木目を生かした5色の自然塗料塗りのスギ板貼りとし、その色はテラス奥にある透明自然塗装のスギ板壁の板目を背景に、ひとつのサインとしての機能を持たせた特徴的な色合いになっています。インテリアは、構造体・建具・造作等、木をすっきり見せる表現を心掛けました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

地域環境との調和を考えた外観は控えめな色調ですが、玄関から奥に伸びたエントランスの空間は、白が基調の壁面に寄木の柱と木質フローリングの床材が映え、木質が醸し出す優しい風合いが子どもたちや保護者を出迎えます。

「木の香りがして癒される」、「広々として温もりのある空間を感じられる」、「木枠窓や木の引き戸を全開にして見る風景は一服の絵画のよう」との声を保護者や職員から聞いています。木造園舎から続いて広がる園庭と繋がる古墳の深緑の中に包まれるように、喜々として遊ぶ子どもたちの姿が育まれています。



正 殿

さいくう平安の杜(正殿、西脇殿、東脇殿)

所在地	多気郡明和町大字齋宮2800	延床面積	316.3㎡
発注者	三重県(齋宮歴史博物館)	工事費	494,873千円
工期	着手 平成26年3月24日	木材利用量	247.6㎡(3棟合算)
	完成 平成27年7月31日	うち県産材利用量	193.0㎡(3棟合算)
階数	地上1階	設計	株式会社文化財保存計画協会
構造	鉄骨造と木造の混構造	施工	松井建設株式会社名古屋支店

1.木造を選択した経緯

これらの建物は、平安時代の齋宮を体感することを目的として建設された復元建物で、国史跡齋宮跡の指定地内にあります。このような目的のため、平安時代の建築意匠を忠実に復元することが必要であり、当時と同じ木造を選択しました。そして平安時代にも、使用木材は齋宮周辺で調達していたと考えられることから、建設にあたって可能な限り県産材の使用を工事業者に求めました。



西脇殿



東脇殿



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

平安時代の工法をそのまま復元すると、現在の建築基準法に基づく安全基準を満たさないため、発掘調査で得られた建物の情報（柱位置と柱径）を尊重しながら、現在の基準に照らしても構造耐力を満たすよう、身舎の柱や梁、桁といった主要構造材の内部に鉄骨を埋め込み、構造補強を行いました。また、正殿のみですが、平安時代に使用されていたヤリガンナで木材の表面を加工し、古代の質感を表現しました。一方、屋根についても、明和町都市公園条例を改正し、敷地内の建物を密集させないことなどを条件に、檜皮葺や板葺を可能としました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

檜皮葺の屋根や、正殿のヤリガンナ仕上げの木材など、「平安時代の建物の雰囲気がよくわかる」という好意的な評価を多くいただいています。また、発掘調査で確認した柱位置のとおり復元しているため、建物相互の位置関係なども平安時代のままであることから、「古代の空間に迷い込んだような印象」を受けることができます。



三重交通Gスポーツの杜 伊勢 陸上競技場 補助競技場(写真判定室棟、器具庫・南トイレ棟)

所在地	伊勢市宇治館町510ほか	延床面積	405.9㎡ (2棟合計)
発注者	三重県	工事費	105,971千円 (2棟合計)
工期	着手 平成27年9月10日	木材利用量	60.4㎡ (2棟合計)
	完成 平成28年3月25日	うち県産材利用量	42.8㎡ (2棟合計)
階数	地上2階 (写真判定室棟)	設計	株式会社安井建築設計事務所名古屋事務所
	地上1階 (器具庫・南トイレ棟)	施工	(建築工事) 株式会社山口工務店 (電気設備工事) 株式会社日光電気 (機械設備工事) 有限会社安立水道
構造	木造		

1.木造を選択した経緯

平成33年「三重とこわか国体」の開会式・閉会式、陸上競技の開催に向けた整備の一環として建築された陸上競技場の付近施設です。国体の選手、観客をはじめ、多くの皆さんに、「暖かみ」や「優しさ」など木の良さを感じていただき、木材の利用促進につながるよう、また、敷地が風致地区指定の五十鈴公園内に位置しており、周辺の緑豊かな環境と調和が図られるよう木造にしました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

2棟ともに柱・梁等の構造部材だけでなく、壁・屋根の下地材、外壁の仕上材のほとんどに木材を使用しています。なお、木材を外壁材で使用する場合、保護塗装が必要となるため、メンテナンス作業の軽減の観点から、1階外壁のみに木材を使用しています。また、器具庫は、柱・梁に大断面集成材を使用し、柱をできるだけ少なくすることで内部に大きな空間を確保しました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

器具庫は、大断面集成材の使用により、複数の大型シャッターを設置できたことで、指定管理者からは「スポーツ用具を出し入れしやすく使いやすい」との感想を得ています。また、外壁木材の柔らかい雰囲気が周囲の環境と調和していて、利用者にも好印象を持っていただいています。



三重県観音寺公舎

所在地	津市観音寺町446-19	延床面積	366.0㎡
発注者	三重県	工事費	82,058千円
工期	着手 平成27年8月12日	木材利用量	55.9㎡
	完成 平成28年3月8日	うち県産材利用量	55.9㎡
階数	地上2階	設計	日新設計株式会社
構造	木造	施工	株式会社ロッシュ

1.木造を選択した経緯

風致地区でもある閑静な住宅街に相応しい佇まいを意識し木造にしました。雁行型の平面とすることで、前面道路から各住戸への視線をカットするとともに、各住戸間の独立性を高めることで、プライバシーを保ちやすい設計としました。構造壁は外壁と戸境壁のみに限定し、住戸内は全て構造的要素ではない間仕切壁とすることで、将来のレイアウト変更を容易にしました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

構造部分に約53㎡、内装の一部（畳寄せ、間柱など）に約2㎡、外壁羽目板に約1㎡県産材を使用し、一住戸の間口を二間半とした奥行の長い空間とすることで、市場に出回っている製材でまかなえるよう工夫しました。また、住戸内間仕切壁を撤去できるように、床下地に分厚い構造用合板を使用して根太をなくし、構造用合板の上から木造間仕切りを建てました。加えて、外壁のヒノキの羽目板張り部分は、軒と袖壁で囲い、天候による劣化が極力少なくなるように配慮しました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

入居者入れ替わりの際に、現状復旧を容易に行うため、室内の木質仕上げは限定的な範囲となっています。このため、室内では木造を意識することはあまりありませんが、構造材に県産材を多く使ったため、本県の環境保全に貢献できたと思います。



関南部地区コミュニティセンター

所在地	亀山市関町萩原172-3	延床面積	260.0㎡
発注者	亀山市	工事費	116,640千円
工期	着手 平成27年6月10日	木材利用量	69.0㎡
	完成 平成28年3月14日	うち県産材利用量	69.0㎡
階数	地上1階	設計	株式会社前野建築設計
構造	木造	施工	白川建設株式会社

1.木造を選択した経緯

本施設では、「地域住民が親しみを持ち集う核となる施設とする」というコンセプトで設計しました。そのために、木造建築物としての利点を優位に発揮し、温かみや香りにより心地よさをもたらす、快適で優しさのある空間を目指し木造にしました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

木のぬくもりや香りがあふれる施設を目指し、地域産材として亀山市産材（約49㎡）や県産材（約20㎡）を積極的に活用しました。室内には、世代を越えた出会いや交流が生まれる場として「ロビーエントランス」や「ふれあい・図書コーナー」を設け、また和室には、屋外イベントスペースとつながりを持たせた「濡れ縁」を設置するなど、室内外の一体感を高めた木造施設としました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

施設利用者からは、「本格的な木造施設を体験し、地域産材の良さや木のある空間で心穏やかに過ごす充実感を感じている」との声をいただいています。また、地域住民の拠点施設として、木の良さを理解し、お互いが対話する素晴らしい場所を作ることができ、木造にして良かったと思います。



曾根コミュニティセンター

所在地	尾鷲市曾根町606-1	延床面積	269.2㎡
発注者	尾鷲市	工事費	87,566千円
工期	着手 平成27年8月10日	木材利用量	63.9㎡
	完成 平成28年3月1日	うち県産材利用量	51.9㎡
階数	地上1階	設計	藤田建築設計事務所
構造	木造	施工	七宝建設株式会社

1.木造を選択した経緯

コミュニティセンターとしての役割を考慮し、尾鷲市の地場産業である林業の活性化を図るため、地元産の尾鷲ヒノキを多く使用し、ヒノキの香りと木のぬくもりに包まれた心癒される空間を創出し、多くの地域住民が利用したくなるような木造にしました。

また、住民間の交流など地域の拠点となるような施設であるだけでなく、郷土の歴史や文化を継承する場として、曾根遺跡からの出土品や、明治から昭和にかけての生活用品などが展示できる郷土資料室も併用した施設としました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

人の目に触れるところは、できるだけ尾鷲ヒノキを用いました。内装の腰壁に約69㎡、天井に約1,903㎡、床材には、WPC加工を施した材を約174㎡使用し、また、スギ桁目材の合板を天井（6坪分）に使用しました。このように、木に囲まれた環境を整え、住民が心地よく利用できるようにしました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

バリアフリー化により様々な世代が訪れることが可能となり、床・壁に尾鷲ヒノキを使用しているため、直接木に触れることができます。また、天井の梁を見せることで、広い空間を演出し、心地よいヒノキの香りに包まれていることから、「木の香りが気持ちよく、地域の会合も落ち着いてできる」と高い評価をいただいています。



第二美杉小規模多機能型居宅介護施設 シルバーケア豊壽園 美杉クリニック

所在地	津市美杉町下之川字村5299-1	延床面積	648.6㎡
発注者	社会福祉法人洗心福祉会	工事費	262,332千円
工期	着手 平成27年7月30日	木材利用量	125.3㎡
	完成 平成28年2月29日	うち県産材利用量	45.7㎡
階数	地上1階	設計	株式会社石本建築事務所
構造	木造	施工	株式会社ナカノフドー建設

1.木造を選択した経緯

当法人では、これまでも木の温もりを大切に施設の整備を進めており、木が持つ柔らかさや、温かみは医療福祉施設に適していると考えて木造にしました。

敷地は過疎化が進む山間の集落にあることから、木造が最も周辺敷地の景観に馴染むと考え、積極的に外壁や内装、サインなどにおいても木材を使用しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

機能訓練室やリハビリ室では極力柱のない空間が利用しやすいという観点から、屋根架構を工夫し無柱空間としています。また、梁も通常の120mm幅ではなく60~90mmの幅の屋根梁とすることで圧迫感のない落ち着いた空間を実現しています。

建物の外壁は地元美杉産スギ、食堂広間の壁や玄関の腰掛などにも地元美杉産ヒノキを積極的に使用することで、地元ならではの木の香りに包まれる愛着の持てる建物にしました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

食堂・居間では地元美杉産ヒノキの香りが心地よいと利用者から好評です。また、外壁は地元美杉産のスギ板を貼り、内装にも積極的に木材を使用し柱・梁の木材を見せることで、温かさや明るさが充分に感じられる建物になっていると感じています。



久保山の庵

所在地	松阪市久保町1855-113	延床面積	605.4㎡
発注者	社会福祉法人有徳会	工事費	168,000千円
工期	着手 平成27年10月20日	木材利用量	132.0㎡
	完成 平成28年3月30日	うち県産材利用量	132.0㎡
階数	地上1階	設計	株式会社アスカ総合設計
構造	木造	施工	丸亀産業株式会社

1.木造を選択した経緯

高齢者のための日帰りデイサービスとショートステイを併設した施設は、生活の場として利用者が木のぬくもりを感じられ、心が安らぐ施設にしたいと思いました。また、間伐材も含め地元の木材を使用することで、少しでも地域の活性化につながればという思いも込めて木造にしました。



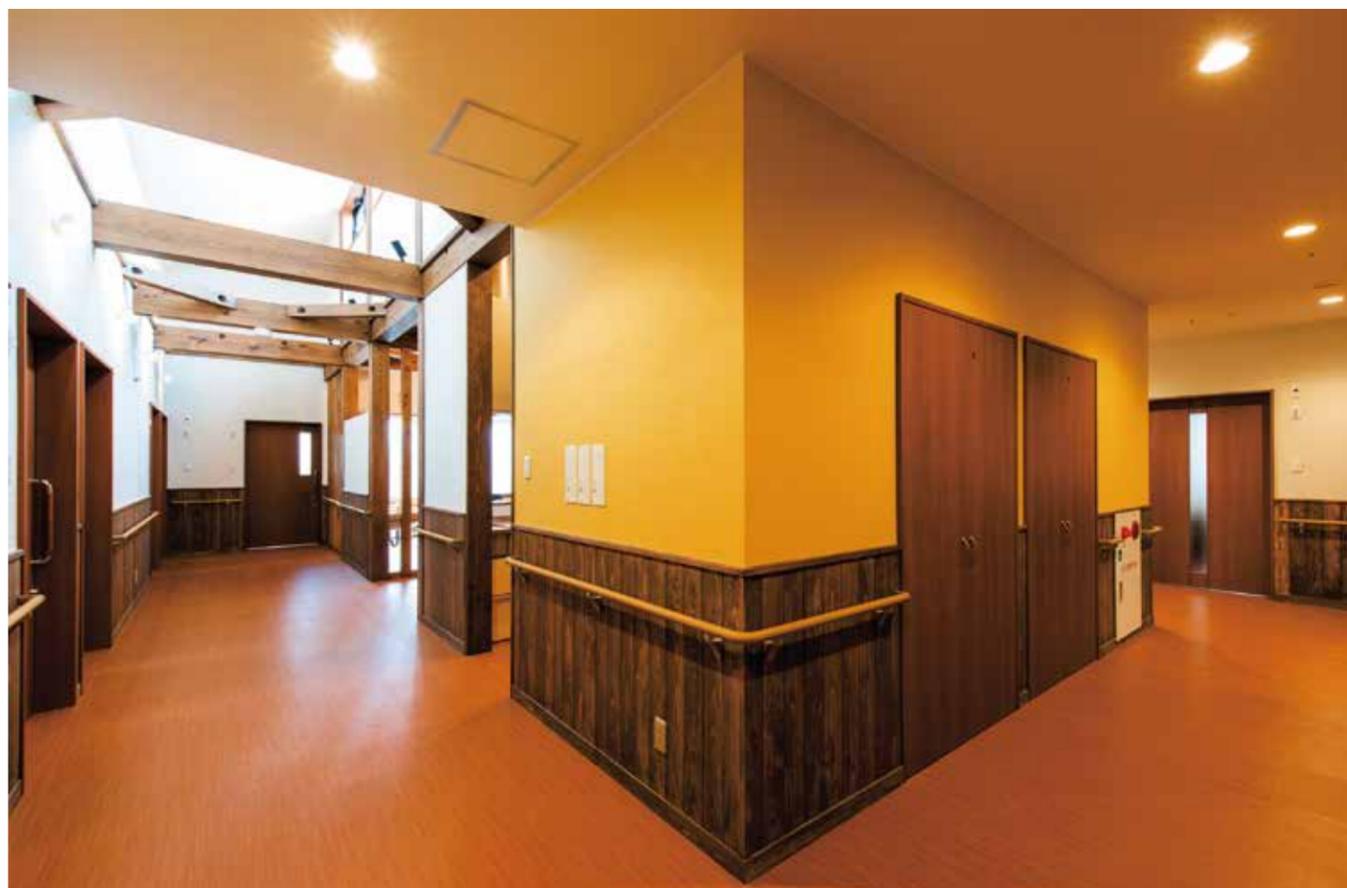
2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

外観は敷地内に隣接する特別養護老人ホーム棟と調和するように瓦葺の勾配屋根とし、建物内部・外部ともに、できるだけ木材あらかしの仕上げとしました。「昔懐かしい昭和レトロのような、ほっとする空間づくり」をキーワードに内外装ともに、仕上げ材に木材を多く使用しました。

施設で使用した木材のほとんどは地域材で、三重県産スギ・ヒノキを使用し、さらに屋根や床下地に使用する構造用合板も三重県産スギを使用しました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

平成28年6月にオープンした在宅サービス施設「久保山の庵」は、県産材をふんだんに使用し、松阪の歴史・文化をイメージした造りとなっています。目に飛び込む柱の存在感、心も和む木の香り・肌で感じる木の温もりなど、利用者だけでなく訪れる方々や働く職員からも、「どこか故郷の懐かしさを感じ、落ち着いた環境の中で生活できる」と建物についての温かい言葉をいただいています。



有料老人ホームみどりの森

所在地	松阪市鎌田町412-5	延床面積	840.0㎡
発注者	株式会社みどりの森	工事費	261,952千円
工期	着手 平成27年6月15日	木材利用量	206.5㎡
	完成 平成27年11月25日	うち県産材利用量	206.5㎡
階数	地上2階	設計	地主建築設計事務所
構造	木造	施工	丸亀産業株式会社

1.木造を選択した経緯

今日まで、松阪市内で有料老人ホームを運営していますが、施設が鉄骨造のため、「冷たい感じ」がしておりました。今回、新しく施設を建設するにあたり、木造でも準耐火構造に対応できることから、「温かみ」を感じることができる木造にしました。

また、内部だけではなく、外部にも県産材を多く使用し、木造施設であるということを強調する設計としました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

建物は大きく二つの構造で構成されており、玄関などの共用部分は縦ログ工法を採用しました。外部にはヒノキの板貼り、内部においても、外壁部分に縦ログ工法によるヒノキの柱壁が見える構造にしました。また、居住部分は燃え代設計による軸組構法を採用し、外部では、柱をあらわしとして使用し、内部では居室の壁面に木材を貼るなど多くの木材に囲まれた空間になるよう工夫しました。多くの木材を調達するには時間的な制約もあり多大な労力を使いましたが、木材に囲まれた自然な空間を作ることができ、木造にして良かったと思っています。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

施設開設にあたり、入居者募集をしましたが、室内に入ると木の香りに包まれた空間が評判で、すぐに定員に達することができました。また、木材を多用したことで、「木の匂いが気持ちよく、調湿機能や肌触りが良い」と評判です。また、訪問者には、「施設独特の匂いも少ない」と好評です。



松本クリニック

所在地	松阪市駅部田町1619-2	延床面積	328.4㎡
発注者	医療法人松徳会	工事費	157,000千円
工期	着手 平成27年8月1日	木材利用量	118.8㎡
	完成 平成28年3月2日	うち県産材利用量	118.8㎡
階数	地上2階	設計	株式会社はりゅうウッドスタジオ
構造	木造	施工	松阪興産株式会社

1.木造を選択した経緯

既設の病院の隣に医院を開設するにあたり、当初は鉄骨造で計画をしていました。しかし、近年は木造の医院も多くなってきたこと、三重県産ヒノキを多用して造ることができると知り木造にしました。中でも、普通の工法では、木材が表面に現れないとのことから、あらわしとして木材を見ることが出来る縦ログ工法を採用しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

建物は縦ログ工法であることから、医療関係に支障のない空間の壁は、ほとんどが木材のあらわしとなっています。縦ログ材は無垢の柱を並べたものですので、壁厚が十分あり、木材の香り、調湿作用などもあり、快適な空間になっています。

また、見える部分には板材を貼って木造をアピールしています。面積当たりの木材使用量は相当多く、木材調達には時間がかかりましたが、三重県産ヒノキを主に使用することができました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

デザイン的に特徴のある空間を目指し、施設設計を行いました。木造で見事にその仕様を具現化することができ、特徴のある建物として患者さんにとっても好評です。

また、施設の看板と木材を上手くコラボレーションすることで、PR効果の高い建物となり満足しています。



湯元山荘湯ノ口温泉 バンガロー

所在地	熊野市紀和町湯ノ口10	延床面積	120.1㎡ (6棟合計)
発注者	熊野市	工事費	149,299千円
工期	着手 平成27年6月1日	木材利用量	36.6㎡
	完成 平成28年2月26日	うち県産材利用量	36.6㎡
階数	地上1階	設計	株式会社前田建築設計事務所
構造	木造	施工	株式会社幸榮建設

1.木造を選択した経緯

地域産材を使うことで林業の活性化につながることを期待するとともに、湯ノ口温泉は山々に囲まれた谷あい位置するため、山里の自然に溶け込むような施設になるよう木造を選択しました。

設計のコンセプトとして、長期にわたり滞在する湯治客の方に落ち着いた空間の提供を行い、体も心も安らげるあたたかみのある施設となることを目指しました。



2.木材の使用箇所や木材を使用するうえでの工夫点

外壁はメンテナンスも考慮して耐久性のあるヒノキを使用し、維持管理のコスト低減を図りました。内装では、床にはスギを主に使うことで利用者にやさしい柔らかい床としつつ、腰壁部分にはヒノキを使い、部屋全体として木のあたたかみを演出しました。

3.利用者の評判、木造を選択した感想

バンガローご利用のお客様からは、「外観はもちろんのこと、お部屋の中も木の香りが漂い、日常では味わえない空間となっているので、とてもゆったりとくつろぐことができた」、「キッチン・トイレの床も木のフローリングなので裸足で歩いても気持ちがいい」、「ロフトがあることで6帖のお部屋が広く感じられ、とてもリラックスできた」などの感想をいただいています。



写真：美杉クリニック

三重県農林水産部 森林・林業経営課
〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地
TEL:059-224-2565
FAX:059-224-2070